



地域資源や地域特性を活かした特色のあるまちづくりを推進するため「地域の力（考え）で地域を育てる」地域まちづくりをすすめています。市内各地域のまちづくり活動団体によって取り組まれている地域まちづくりの活動を地まぢのチカラで情報発信します。

2024.11.1

vol. 107

《「名古屋×屋上」の新しい可能性！》

令和6年度まちづくりびと講座（全三回）では、毎回異なる講師から、名古屋のまちづくりの今を学ぶ講座です。第一回は使われていない未利用地としての屋上にポケットパークを作り、利活用するプロジェクト「青空ルネサンス」の篠元貴之さん・後藤千丈さんにご登壇いただきました。

お二人は市内のビルや立体駐車場の屋上を活かしたイベントを既に10回以上開催されています。

「どうして始めたの？」
「どう広がっていったの？」
まずはそうした疑問に答える活動の経緯の説明とともに、名古屋と屋上を組み合わせると見えてくる新しい名古屋の魅力をお話いただきました。

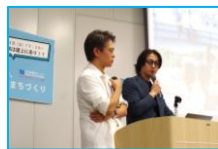


青空ルネサンスの様子

令和6年度 まちづくりびと講座

地まちNEWS

後半は講義をふまえての質疑応答。「なぜ名古屋で屋上なんですか？」「複数のビルで同時開催の予定はありますか？」など、さまざまな質問に、丁寧にご回答くださいました。



活動の広報に関する質問も多く、共感の輪を広げていく上で欠かせない想いを伝えるためのテクニックについてのお話もいただきました。



今後の講座スケジュール

第二回：11月9日（土）

申込み

第三回：12月1日（日）

受付中！



・本講座報告レポート
・講座お申込み
コテラから！

明治・内田橋堀川まちづくり協議会 地域での取り組み

《第1回まちづくりビジョンマップ作成委員会》

今年度地域まちづくり活動団体に登録した明治・内田橋堀川まちづくり協議会は南区の内田橋商店街を中心に活動中。今年度中の「まちづくりビジョンマップ」作成を目指しています。

この日は初回の作成委員会。協議会メンバーだけでなく明治学区の方々も集まって、理想の明治・内田橋エリアのイメージを共有し、意見を出し合います。さらに、自主イベントの開催、住民アンケート、堀川クリーン活動など、明治・内田橋をさらに盛り上げる今後の予定についての話も。

ここ数年で新しい店舗が次々にオープンしている明治・内田橋エリア。ビジョンマップによってさらに地域が一体となり盛り上がっていくのを楽しみにしています！



この日は関係者10名で実施



地まちチャレンジまちづくりを行う“人”にフィーチャーしたインタビュー



53人目 今泉 麻衣子さんご紹介
砂原設計室 代表／一級建築士
NPO法人あいちヘリテージ協議会 副代表

奥村 由美さん

Q まちづくりに取り組んできた中でうれしかったこと

A ご自宅の歴史的価値を確認できたことで、家を大切にしたい、誇りに思えるようになった、と言っていたんだこと。また、ご家族が相続され引き続き大切にしてくださいること。

Q これから取り組みたいと考えていること

A 建物、町並の歴史的価値について、講習会、見学会などを通じて、もっと啓蒙活動が必要であると考えています。

Q 最後にひとこと

A 最近ではレトロブームと言われています。町の歴史や建物の事を少し知るだけでも、実際見た時の面白さは倍増します。興味を持っていただくこと、それが全ての第一歩かと思えます。

星崎学区連絡協議会 地域での取り組み

《第1回ぼうさいフェスティバル開催！》

「住民のつながり力」と「地域の防災力」の向上という目標を立てている星崎学区連絡協議会。これまで毎年学区の運動会を行っていましたが、今年は運動会に代えて「ぼうさいフェスティバル」という防災イベントを実施しました。

「火事だー！」と叫ぶ大声コンテスト、オリジナルうちわを使っている防災〇×クイズなど、大人も子どもも楽しめるコンテンツばかり。今回から希望者の任意参加に変更したこともあり「一人も来ないかも、と思っていた」（各務会長）とおっしゃるほど来場者数が読めなかったそうですが、当日はなんと600名を超える方が参加。「楽しく防災に触れる」という団体の皆さんの想いが形になり地域に広がっている！と感じるイベントでした。



チーム対抗バケツリレー

大声コンテスト
120dbを超えたら景品も

校庭の中心で〇×クイズ

奥村さんは設計事務所の代表を務めながら、歴史的建造物の修繕や保存のアドバイス・調査などを行うヘリテージマネージャーで構成された「NPO法人あいちヘリテージ協議会」の副代表などとしても活躍されています。歴史的建造物の修繕等を行う場合は事前調査を行います。何度か改修をしている建物は屋根裏や床下などにかつての修繕の痕跡が見つかるそうです。その際、必ずしも最初の状態に戻す（修繕する）ことが最善とは限らず、必ず複数人で調査をし、どの時代の状態にするかを検討すること。ご自身の事務所では新築物件を設計されていますが、歴史的建造物に関する業務を通して「快適でない家は、次の代、その次の代と長く守っていくのは難しい」と感じているため、設計の際は「快適さが保てているか」という点を気にかけているそう。また、今の新しい建材や技術を歴史的建造物の修復に活用するなど、歴史的建造物と新築物件それぞれからよいところを取り入れています。過去と現在は独立しているのではなく、混ざり合ってまちを作る。研究熱心で柔軟な奥村さんの、熱い想いを伺うことができました。

